

予報期間 9月25日から10月1日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 27日は、低気圧がサハリン付近と日本海西部に進む。前線が東日本の南岸から西日本に停滞する。
- 28日から29日は、低気圧が日本海からオホーツク海に進み、前線が北日本付近を通過する。別の前線が東日本の南から西日本に停滞する。
- 30日から10月1日にかけて、低気圧が沿海州付近からサハリン付近に進み、前線が北日本付近を通過して日本の東から日本の南にのびる。

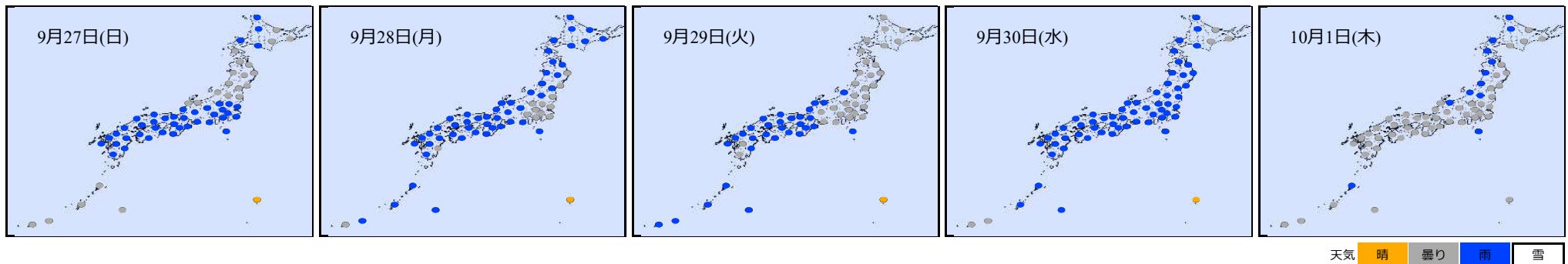
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 27日から29日頃にかけて、沖縄・奄美では、台風第26号の進路等によっては大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

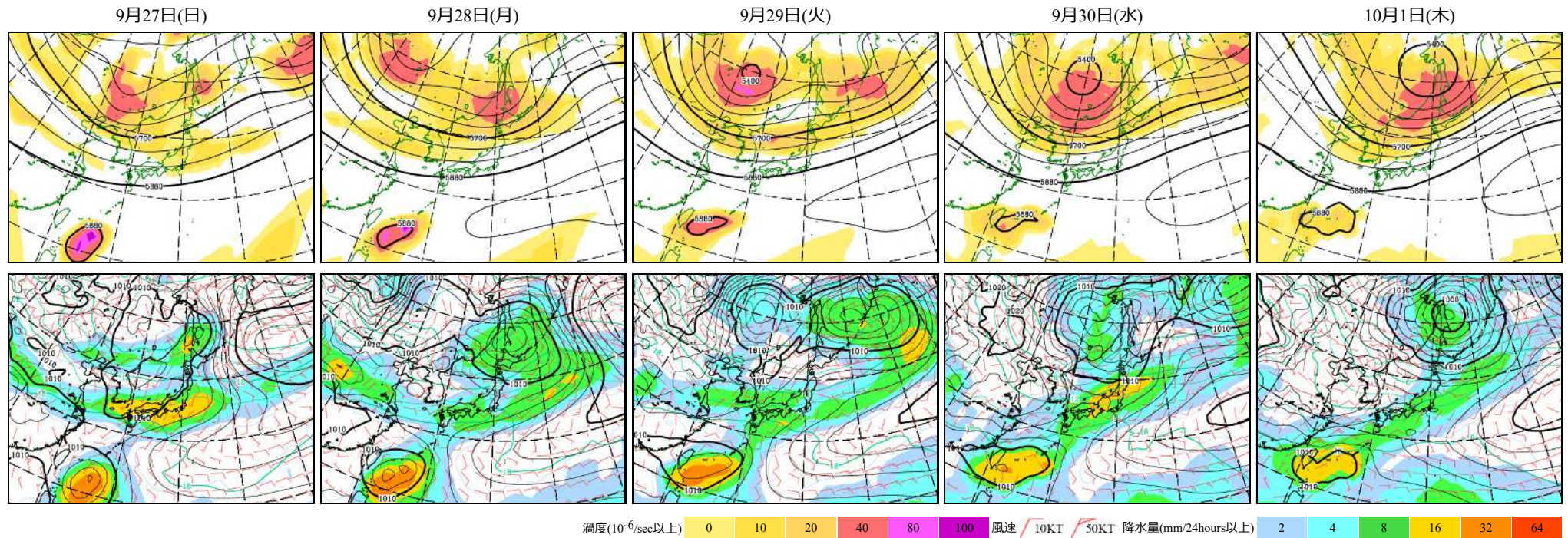
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

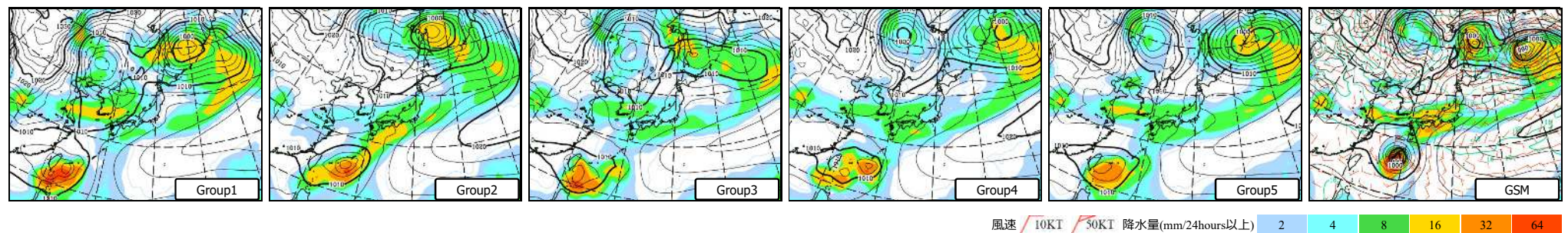


- 全国的に、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月29日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、27日は、日本付近に進む低気圧が日本海西部とサハリン付近で明瞭化し、日本海西部の低気圧は29日にかけてオホーツク海へ進んで発達する傾向となった。30日から10月1日にかけては次の低気圧がサハリン付近に進み、北日本付近を通過する前線の進みが早くなった。このため30日は北日本から西日本では降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- 日本付近に進む低気圧や前線の位置については、モデル間のばらつきが大きい。
- スプレッドは比較的小さいが、特定高度線のばらつきは見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。